



竹の子川柳会

につこりのえがおをとるよいいしやしん
 小二 優
 冬さんぽどんどんあるくあたたかい
 小二 隆 希
 につこりのくまさんかくよおえかきで
 小二 心 香
 にらめっこかつとにつこりうれしいな
 小三 勇 斗
 ほんだなにほんがふえるよううれしいな
 小三 みるく
 さん歩中はほなでる風こちちよい
 小四 心 春
 今月のおこづかいふえカード買う
 小五 翔 太
 しらす似のメダカ集まる水面へ
 小五 太 清
 水そうのメダカどうしてあいさつだ
 中二 清 也
 につこりと笑顔ができた一日だ
 中三 海 士
 受験生入試へ不安ふえる日々
 中三 海 斗
 餌見つけ歩いて運ぶアリ家族
 高一 ななみ
 メダカから見える景色はどんなだろ
 高三 瑠 依
 につこりと笑えば今日もいい気持ち
 高三 ちひろ

ひよし川柳会

本に夢中佳境どきどきミステリー
 水野すみこ
 どきどきもときめきもない八十路坂
 川添 忠昭
 豊かさは不便でも良い山暮らし
 木村 貞子
 コロナ禍で豊かな国も砂の城
 中城 英雄
 豊年万作双子に年子子が五人
 若宮 賢敬
 山奥へ移動販売救世主
 山本 雅之
 へそくりをたびたび移動して忘れ
 兵頭チヨカ
 子育てに田舎最適移住する
 伊勢本 恵
 移り香にピンときている妻の勤
 山本 節
 総入れ歯甘い時代もあったっけ
 大崎 五葉
 失敗は脇の甘さよお人好
 熊本 忠真
 甘い話に乗って財産水の泡
 菅原 由紀
 猪を甘く見て居たいも畑
 渡辺 光男
 発想を変えて人生いきいきと
 米子 達雄

鬼北の足跡をたどる



解説・等妙寺縁起と鬼北の「おに」伝説⑤

等妙寺縁起には開基以後の等妙寺の歴史が叙述され、これの大部分を占めるのが等妙寺の開基伝承であるというのには前回までに紹介しました（広報きほく9月号参照）。今回はその内容を取り上げます。

等妙寺縁起に記された開基説話の1話目は、曾我兄弟が登場します。等妙寺の開山僧、理玉和尚が奈良山山中で寺院の建立場所を決めるために21日間、祈禱を行う儀式、修法を終え、下山する途中、二人の若者に出会います。この二人が実は奈良山に棲む、曾我兄弟の亡霊でした。理玉は、彼らの住居に泊めてもらった際、争いの絶えない世界、修羅道に迷って苦しむ彼らに授戒（仏弟子となるべく遵守すべき戒めを授け、成仏させるための儀式）を施し、蘇生させました。二人は、理玉和尚の寺院建立、法華経安置によって信心を深めたといえます。つまり、等妙寺は曾我兄弟の菩提を弔う寺として建てられたという見方もできます。

等妙寺縁起の開基説話の2話目には、鬼王・段三郎が登場します。理玉和尚が黒土郷目黒村（現在の松野町目黒）の奥山に行ったところ、ここに棲む年老いた二人の老人に会いました。この二人の老人が実は曾我兄弟の従者、鬼王と段三郎だったのです。理玉は修羅の道で苦しむ彼らの主君、曾我兄弟を救済したので、彼らはその報恩のため、牛玉、鹿玉、大豆の三粒を献じたといえます。

このうち、牛玉、鹿玉は現存し、現等妙寺に伝わり、「鬼王段三郎」と書かれた位牌もまた、現等妙寺に祀られています。また、松野町目黒には、曾我兄弟の墓碑や地形石があったともいわれています。



▲現等妙寺で供養される鬼王段三郎の位牌